



学校だより

平成27年 3月号
尼崎市立浜小学校
校長 市川 勉
TEL 6499-1536

浜小HP <http://www.ama-net.ed.jp/school/E15/index.html>

今年も 弥生(3月)に入りました 浜っ子全員、1年の締めめの月！！

「光陰矢のごとし」は月日の経つのがとても早いことを言います。また、時間が人の都合とは関係なしに刻々と過ぎていくことを「歳月人を待たず」と言います。どちらも前述した意味だけではなく時間を無駄にすることがないように、努力に励めよという戒め、月日の経つのはあっという間で2度と戻ってこないから、無為に送るべきではないという戒めを含んでいます。

私自身、この3月31日で、とうとう退職となります。個人的なことで申し訳ございませんが、少し振り返りますと、昭和59年4月に現在は統合されて校名はなくなりましたが、尼崎市立開明小学校で教師人生のスタートをきりました。30才のスタートでした。あれから31年。何と教師生活の14年間も浜小学校でお世話になりました。まさしく浜小学校は私のふるさとです。

楽しかったこといっぱい。嬉しかったこといっぱい。辛く、悲しく、しんどかったことも結構ありました。でも、やっぱり私は浜小学校のことが大好きです。教師として、人間として、浜小学校でいっぱい育てていただきました。本当に浜小学校に感謝しています。保護者の皆様、地域の皆様に、多大なるご理解とご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

元気な浜っ子たちへ。この3月をしっかりと締めくくって、4月からの進級した学年に備えてください。新たな学習に粘り強く取り組んでいってください。仲間を大切に、みんなと心を合わせて、いろいろな行事に素晴らしい成果を残し、周りの人に感動をいっぱい届けてください。心より期待しています。子どもたちが自信をもって最後まで物事を粘り強くやり通せるようになるには、何と云ってもご家庭での励ましの声かけが1番だと思います。これからも何卒よろしくお祈りします。

最後の全校朝会で話したいことを少し前に保護者の皆様にお伝えします。それは、浜小学校の校長として5年。浜っ子にちょっと足りなめ、もう少しでいいから頑張ってもらいたいなあと思っていることです。

仏典の故事から引用させていただきます。インドの雪深い山にすむ鳥の話です。想像上の鳥ですが、雪山(せっさん)の寒苦鳥(かんくちょう)と言います。1組のつがいに住んでいました。昼は太陽の光が当たるので、山でも暖かくとても気持ちよい気候になるそうです。鳥たちは陽気に浮かれて、のんきに遊んでしまいます。ところが、夜になると昼とは打って変わって、厳しい寒さが鳥たちを襲います。昼間、楽しく遊びほうけてしまったことを激しく悔います。メスは「寒くて死んでしまうわ」と一晩中、泣き叫びます。オスは「夜が明けたら、巣を作ろう」と固く決意し、妻を懸命になだめるのでした。そのような苦しい思いをしながらも、夜が明けて暖かくなると、すっかり忘れてしまい、また昼間一日、遊びほうけてしまうのです。鳥たちは、

夜は寒さに苦しみ、昼は遊びほうけることを繰り返していきました。そして、ついに、巣を作ることなく、むなしく一生を終えました。(この鳥たちは、雪の山に住み、寒さに苦しむということで「雪山の寒苦鳥」と呼ばれています。)

私は今までに全校朝会で、いろいろな話をしてきました。浜っ子のすばらしさや頑張りをいっぱいほめ、良くないところや直してほしいこともいっぱい話してきました。いつも3枚の画用紙に今日話したい中心となる言葉を書き、浜っ子全員に伝えてきました。昨年あたりから掲示委員会の子どもたちがその3枚の画用紙を全校朝会の後、校長室まで取りに来るようになりました。しばらくして気がついたのですが、掲示板に貼られていました。今年も同様に貼ってくれているようですが、この5年、本当に浜っ子は全校朝会の私の話を真剣に聞いてくれていました。まさしく校長冥利に尽きる思いです。

最後の「雪山の寒苦鳥」の話は、明日からやろう。4月になったら学年が上がったらやろう。中学校になったら頑張ろう。どれもやっぱりなかなかできないものです。夏休みの宿題も同じです。ついつい後回しに。私も同様な経験はいくらでもしてきました。おそらく親御さんの中にも、よく似た経験をされている方も多いと思います。とにかく「今でしょ。」流行語のような言葉になってしまいましたが、やろうと心に強い意志をもち、やり出すのは、改めるのは、決して明日からではない。思った今からなんだと言うことを最後の全校朝会で訴えたいと思います。

また、保護者の皆様に9月号の学校便りで、教育学者ドロシー博士の「子どもが育つ魔法の言葉」を日々の子育ての参考にしていただければ思い、一部を紹介させていただきました。最後に全文を紹介させていただき、これからの子育てにお役立っていただければ幸いです。

「子は親の鏡」 ドロシー・ロー・ノルト著(米国の教育学者)

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引込みみじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだとおもえるようになる

(校長 市川 勉)